

X I -6 小児感染症

1) アデノウイルス

- (1) 原因：アデノウイルス
- (2) 感染経路：
 - ① 飛沫感染、接触感染
 - ② 唾液、眼脂、便中に感染性ウイルスが排泄される。
- (3) 潜伏期間：5～7日
- (4) 症状：咽頭炎、扁桃炎、肺炎、咽頭結膜熱、流行性角結膜炎、胃腸炎、出血性膀胱炎
- (5) 診断：
 - ① 迅速診断法：咽頭拭い液によるアデノウイルス抗原検出
 - ② 血清抗体価測定：補体結合反応、急性期と回復期のペア血清による抗体価上昇
- (6) 感染可能期間(伝染期間、隔離期間)：
 - ① 隔離期間：罹病期間中
 - ② 発症後7～10日間、気道分泌物・眼脂に排泄される
 - ③ 気道症状軽快後、2週間以上糞便中に感染性ウイルスが排出され、糞口感染により伝播
- (7) 治療：特異的治療法はない。対症療法
- (8) 院内感染予防：
 - ① 飛沫感染予防対策
 - ・ 患者の1m以内の作業時はサージカルマスク着用。
 - ・ 集団隔離、または他の患者と1m以上離す(複数患者を一室にまとめて収容、可能であれば個室管理)。
 - ・ 患者移送は制限。移送時はマスク着用。
 - ② 備品(体温計・血圧計・聴診器)は専用とする。眼科診療に用いる器具は厳重な消毒を行う。
 - ③ 退院後：汚染部位は次亜塩素酸Naで清拭。器材および次亜塩素酸Naで腐食するものは消毒用アルコール清拭。
 - ④ 職員の手指を介しての伝搬を防止：十分な手洗いとアルコール消毒。
 - ⑤ 職員罹患時：諸症状が消失すれば勤務可能。

※流行性角結膜炎(EKC)については、別項目に記載あり